

令和5年度 学校評価報告書

令和6年3月8日

北海道教育委員会教育長 様

北海道美深高等養護学校長 濱 裕 晃 印
(あいべつ校)

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- ① 「わかりやすさ」や「伝わりやすさ」を重視し、伝える努力と感じとる努力に心がけ、組織体制を一層充実させる。

② 教職員の確かな専門性に基づき、協働意識を高めるチームとしての学校力の向上に努める。

③ 学校運営協議会を設置し、地域資源を活用した特色のある教育活動の充実を図る。

④ 働き方改革の推進に向け、各部署において、内容の重点化・焦点化による業務のスリム化、事務処理の効率化、役割分担の平準化などに取り組む。

⑤ 開校10周年の節目を大切にした経営活動、記念事業を推進する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教職員	・【No.1～7】学校運営については、Aの値よりBの値が高く、まだ改善できる余地があることがうかがえる。 ・【No.8～13】教育活動については、社会で必要なマナーやルールについて指導や生徒の問題行動の早期発見や組織的な指導においてCの「やや不十分」が若干見られている。 ・【No.14～16】連携、保護者対応については、Bの「おおむね十分である」が約80%と高い値を示したが、Aの値が16%と低かった。	・ 今後も学校と保護者との連携を深めて、より良い教育活動の深化および充実を期待します。 (学校評議員)
改善方策	・ 人間関係のトラブルについては、日常的な観察による早期発見に努めるとともに、組織的な対応の継続と関係機関との連携を図るなど、保護者への丁寧な説明をとおして、説明責任を果たし保護者との共通理解を図る。 ・ 個別の指導計画については、校内研究でも「個別最適な学び」などについて授業改善に取り組んでおり、説明責任を果たすことができるように、表現方法や発出の工夫をし、本人や保護者と情報を共有する必要がある。 ・ 情報発信、保護者との合意形成において丁寧な対応と細やかな説明に努め、保護者との共通理解を深める必要がある。 ・ 今後も、目指す生徒像、目指す学校像の実現に向けて、教職員一人一人が学校の教育活動の改善と充実、さらなる深化を図る意識をもつとともに、家庭との役割分担を明確にし、相互信頼を基盤とした保護者との「共有」を推進し、さらなる教育効果の向上を図る。	
保護者	・ 【No.1】教育方針、【No.2、3、】教育課程においては、A+Bの値で100%を占めており、R4と比較するとAの値が減少している。 ・ 【No.5、6】生徒指導において、肯定的な回答(A+B)が90%を上回る結果となったが、「やや不十分」の値が若干上がっている。 ・ 【No.7】の生徒のいじめや人間関係のトラブルなどの指導については、若干ではあるがAの値がR4より高くなった。日ごろから生徒の課題や悩みに耳を傾けている成果と思われる。 ・ 【No.9】安全指導について、Aの値およびA+Bの値がR4と比較して減少している。夏の暑さが影響していると考えられる。 ・ 【No.10～12】進路指導、情報発信、連携においては、A+Bの値が100%となり、進路に関する情報や関係機関との情報の共有を保護者や地域に適切に発信できた。更に工夫を加えて情報の共有を進めることが求められる。 ・ 【No.13～16】保護者対応については、A+Bの値がほぼ100%を占め、R4と比較して高くなっている。PTA活動については、Aの値が昨年よりは半減しており、保護者のニーズを把握して持続可能な取り組みを模索する必要がある。 ・ 【No.20、21】研究・研修について、Aの値が16%と低く、専門性の向上のため効果的なICT機器の活用や研修を今後も積極的に進めることが求められる。	
改善方策	・ 人間関係における悩みを抱えている生徒もいることから、今後も早期発見、組織的な相談・指導に務め、未然防止にも力を入れることが求められる。 ・ 今後も暑さ対策に関しては、早期対応を念頭におき、生徒が安全で健康に過ごせるよう留意する必要がある。 ・ ホームページの定期的な更新、学校だより及び学級通信の内容の充実に努め、保護者や地域に向けてのタイムリーな情報の発信に努める。 ・ より多くの保護者が無理なく参加できる活動内容の充実を図り、PTA活動の活性化に努める。	

生徒	・【No.6～8】において肯定的回答が80%を越えて高い評価を得ている。また、昨年度より「わからない」と答えた値がそれぞれ減少している。 ・「生徒指導」については、R4は61%であったが80%になり、卒業後の生活や進路に関して学年が上がるに従って高い値を示す傾向が見られた。作業や学習全般において、働き続ける力を学年が上がるにつれて主体的に考える姿勢が育っていると思われる。 ・「学習指導」については、R4は75%であったが90%になり、指導の根拠（「なぜ学ぶのか」）の提示や、生徒用シラバスの活用、一人一人の学びの特性に応じたきめ細かな指導、主体的、対話的で深い学びの視点からの授業の改善・充実に取り組んでいる成果と考えられる。 ・「生徒指導」については、「社会人になるために必要な力」や「社会人として身に付けておくべき力」を明確にし、一人一人のよさや課題を的確に把握した継続的・一貫的な指導の成果と考えられる。 ・【No.2】「困り感」（65%）、【No.3】「信頼関係」（69%）、【No.5】「自己有用感」（69%）において、肯定的な回答が70%を下回っている。 ・対人関係の構築やコミュニケーション能力、課題解決能力に課題が見て取れる。対人関係に対する不安や不満の解消、信頼関係の構築、自己有用感を高めるために、特別の教科道德の指導を中心に、自己理解、他者理解に関わる指導の充実を図る必要がある。 ・「自己有用感」についても、自分の認めてくれる人はいるかの回答で「わからない」が26%いることから、自分に対する自信のなさが原因と考えられる。自分で限界を決めてこれ以上はできないと早くに諦めてしまう傾向が見られる。	・地域での活動を有効に活用して、生徒の成長につなげてほしい。 (学校評議員)
改善方策	・行事などを経験をする中で、達成感を感じられるような指導が求められる。日ごろから自信をつけさせるような言葉かけや生徒同士からの評価をとおして、自己有用感を高められるようにする。 ・対人関係の不安や不満の解消、信頼関係の構築、自己有用感を高めるために、道德の指導を中心に、自己理解、他者理解に関わる指導の充実を図る。 ・日々の授業やHR、生徒面談等とおして、生徒自身が将来の生活を具体的に見通せるように、個に応じた丁寧な進路指導に努める。	
公開方法	・ホームページへの掲載 ・分析結果の配布（保護者）	

3 添付資料

・令和5年度学校評価報告（アンケート集計・分析・結果）